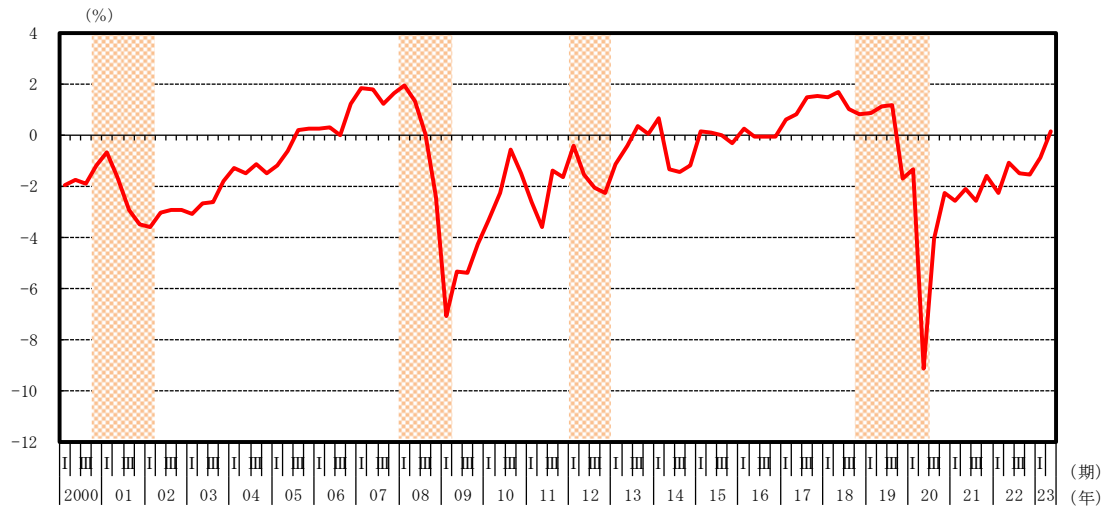


2023年4－6月期GDP 2次速報後のGDPギャップの推計結果について

1. 2023年4－6月期のGDP 2次速報を反映したGDPギャップ（注1）の推計結果は+0.1%となった（図1～2、表1）。

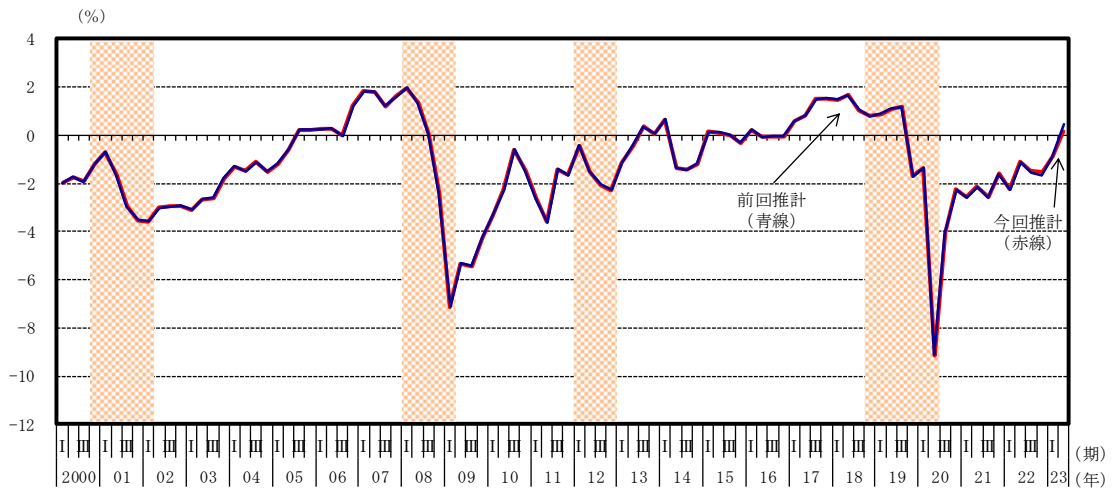
（注1）GDPギャップ＝（実際のGDP－潜在GDP）/潜在GDP。この推計にあたっては、潜在GDPを「経済の過去のトレンドからみて平均的な水準で生産要素を投入した時に実現可能なGDP」と定義している。GDPギャップの大きさについては、前提となるデータや推計方法によって結果が大きく異なるため、相当の幅をもってみる必要がある。GDPギャップの推計方法の詳細は、経済財政分析ディスカッションペーパー（DP/17-3）及び今週の指標No. 1278、No. 1294、No. 1310を参照のこと。

図1 GDPギャップの推移



- (備考)
 1. 内閣府「国民経済計算」、「固定資本ストック速報」、経済産業省「鉱工業指数」等により作成。
 2. シェードは景気後退期。

図2 GDPギャップの新旧比較



- (備考)
 1. 内閣府「国民経済計算」、「固定資本ストック速報」、経済産業省「鉱工業指数」等により作成。
 2. シェードは景気後退期。

表1 GDPギャップの推移

	2016												17				18				19			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV								
23年4-6月期2次QE後	0.2	▲0.1	▲0.1	▲0.0	0.6	0.8	1.5	1.5	1.5	1.7	1.0	0.8	0.9	1.1	1.2	▲1.7								
23年4-6月期1次QE後	0.2	▲0.1	▲0.1	▲0.0	0.6	0.8	1.5	1.5	1.5	1.7	1.0	0.8	0.9	1.1	1.2	▲1.7								

	2020				21				22				23			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
23年4-6月期2次QE後	▲1.4	▲9.1	▲4.1	▲2.3	▲2.6	▲2.1	▲2.6	▲1.6	▲2.2	▲1.1	▲1.5	▲1.6	▲0.9	0.1		
23年4-6月期1次QE後	▲1.4	▲9.1	▲4.1	▲2.3	▲2.6	▲2.1	▲2.6	▲1.6	▲2.3	▲1.1	▲1.6	▲1.7	▲0.9	0.4		

担当：参事官（経済財政分析—総括担当）付 栗山 博雅、北口 隆雅

直通：03-6257-1572

本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。